

令和5年度第2回神戸市学校給食委員会 議事要旨

1. 開催日時 令和5年12月21日(木) 10時30分～12時00分
2. 開催場所 神戸市教育委員会事務局 教育委員会会議室
3. 出席委員 西村委員長、植村委員、小林委員、横田委員、宮澤委員、
小山委員、空井委員、赤松委員、中村委員、竹森委員
4. 議 事
 - (1) 学校給食における地産地消・食育推進の取り組み
 - (2) 食材価格高騰と給食の質の維持

【議事要旨】

- (1) 学校給食における地産地消・食育推進の取り組み
(事務局より資料2について説明)

●委員

- ・今回のような食育推進事業を実施する学校はどのように決めているのか。

○事務局

- ・ヴィッセル神戸については、クラブの練習場である「いぶきの森球技場」の近くにあるという理由で、今回は井吹の丘小学校で実施した。コベルコ神戸スティーラーズについては、ラグビーの体験教室を実施する授業と給食の時間をスムーズに調整できた2校で実施した。

●委員

- ・地元企業による食育プログラムについては、部活動(家庭科部)の状況など実施内容にあった学校に声をかけ、希望する学校で実施している。

●委員

- ・献立表の裏面に良い記事が載っているが、全児童・生徒に行き渡っているのか。

○事務局

- ・全児童・生徒に配付、配信している。

●委員

- ・牛乳パックに広告は入っているのか。

○事務局

- ・牛乳パックについては、牛乳事業者が用意している。イラストが掲載されているものもあるが、広告という扱いではなく、広告費としての収入はない。

●委員

- ・給食だより等に行事食についての記載があるが、栄養教諭が配置されていない学校でも、内容について子供たちが説明を受ける機会はあるのか。

○事務局

- ・事務局からすべての学校に、献立の考え方などをまとめた「一口メモ」を毎月送付している。それをもとに小学校では放送委員の児童が給食時間に放送を行っている。

●委員

- ・学校ごとに必ず行うことになっているのか。

○事務局

- ・「決まり」ではないが、ほとんどの小学校で行っている。

●委員

- ・基本的にはどの小学校でも行っている。私が勤務してきた学校で、行っていない学校はなかった。

●委員

- ・本来は各家庭で日本文化を学んだり、行事の食事を食べたりすることが理想だとは思いますが、様々な事情の家庭がある中で、学校教育の現場で学べることは良いことだと思う。

○事務局

- ・今後は中学校も全員喫食となり、全員で同じ給食を食べるようになるため、どのような食育を行うことができるか検討していきたい。また、生徒が主体的に取り組めるようにもしていきたい。

(2) 食材価格高騰と給食の質の維持

(事務局より資料3について説明)

●委員

- ・米について、すべて神戸市産とのことだが、例えば兵庫県産や、国内の他の米にすることで、価格を抑えることにつながらないか。

○事務局

- ・JAからは、神戸市産と兵庫県産では価格差がないと聞いている。他府県産にすると、輸送費との兼ね合いもある。

●委員

- ・今回の説明を受けて、価格の高騰が栄養価に与える影響は深刻だと感じた。
- ・やはりエネルギー量さえ満たせないとすると、給食費を改定する必要があると思う。
- ・カルシウムについては、牛乳を選択していない生徒も、学校給食でしっかりとることが出来るような献立にしていくことも重要である。
- ・最近では価格高騰の影響で、家庭で果物を食べない子供も多くなっていると聞いており、給食でビタミンCを摂取することは重要である。
- ・経済的に苦しい家庭については、公的な補助もあるので、持続可能な給食を維持するためにはある程度の値上げは必要だと考える。
- ・個人的な意見にはなるが、栄養価も維持しながら楽しみも残すのであれば、今年度と同水準の献立としていくことが良いのではないかと思う。

●委員長

- ・前回の委員会でも、栄養価を満たしながら、おいしく楽しい給食を維持していくことが望ましいとの意見があった。
- ・子供の身体的な成長に直結する問題であり、成長期の子供たちが十分に栄養を摂取できるようにしてもらいたい。
- ・ただし、今は各家庭も物価高騰の影響を直接受けており、難しい問題である。
- ・国の補助金などの公的資金を、何とか頑張ってもらって入れていただくことが方向性として考えられるのではないか。
- ・ただちに保護者負担を増額するのではなく、公的資金の活用について、事務局には努力していただきたい。

●委員

- ・中学校では、来年度全員喫食になった際のデータを分析する必要がある。その中で、現状のままでは栄養バランスを満たした給食を提供できないというデータを示してもらえれば、給食費の改定はやむを得ないと保護者も納得できるのではないか。
- ・栄養量も含め、さまざまなデータを示した上で、負担額を提案していく過程が必要だと思う。
- ・小学校でも中学校でも給食は楽しいものであってほしい。そのための工夫は今後も行ってもらいたい。

●委員

- ・最近「孤食」と言われているように、子供が1人で食事をする機会が増え、好みのもに偏った食事になっている。エネルギーについては間食でも賄うことができるが、ビタミンやカルシウム、鉄、食物繊維は優先順位が低くなっている。
- ・学校で給食を食べると、苦手なものでも皆で食べるから食べてみようという気持ちになり、バランスのとれた食事を摂ることにつながると思う。
- ・1日の食事の3分の1ではあるが、身体をつくる時期に学校給食でしっかり栄養をとっていくことが大切である。
- ・また食育の面でも、子供たちが、どのような食品にどのような栄養素が含まれている、身体をつくるために必要だということを認識できれば、好きな物だけではなく、他の物も食べてみようという気持ちにつながると思う。
- ・給食費の改定について、本当に困っているご家庭には就学援助等の制度もある。また、公的資金も活用できれば平均的にどの家庭も負担が軽減されると感じる。

●委員長

- ・学びながら楽しく食べることが大切である。
- ・いつかの段階で、保護者負担が増えることも致し方ないが、それまでは公的資金を目一杯活用していただきたい。

●委員

- ・段階を踏んで、きちんと周知していくことが大切だと思う。

●委員

- ・家計への物価高騰の影響について、どの程度実感されているか。直近1年間で、食費にかける金額にどの程度影響があったと認識されているか。

●委員

- ・以前より食費がかかるという実感はある。単価としては変わってはいなくても、内容量が減っている食品もある。家庭では、少しでも安いところで買おうとするので、給食でも仕入れ値が少しでも安いところを探してほしいと言う希望はある。大量仕入れになるので、家庭とは違って難しいと思うが。

●委員

- ・今回の資料では1食単価で表記しているが、年間で考えると1食単価が50円増えると約9,500円、70円増えると約13,300円増えることになる。

●委員

- ・年間10,000円と考えると、大きく負担が増えるとは思わないが、子供が2人、3人という家庭では2倍、3倍に負担が増える。各家庭で捉え方は違ってくるのではないか。でも最近は、給食費の単価ではお弁当を買うことも出来ないのも、この価格で給食を提供いただいていることはすごくありがたいことだと思う。
- ・ただ負担増と聞くと、反応される家庭もある。

●委員長

- ・食費については、外食も含めて1.4倍から1.5倍程度の影響があるように感じる。

●委員

- ・食材調達を行う上で、事業者とやり取りをしているが、原材料費や人件費が上がっており、海外からの輸入食品については円安の影響もあると聞いている。また来年度からは物流のいわゆる「2024年問題」の影響もあり心配である。
- ・野菜は特にたまねぎについて、主要生産地で不作になっていると聞いており、心配している。

●委員

- ・中学校給食の半額助成はいつまで行われる予定なのか。給食費の改定と、半額助成の終了が重なると、かなり家庭の負担が大きくなるのではないか。半額助成は全員喫食になった後も継続されるのか。

○事務局

- ・半額助成については、市の予算事項であり、予算編成過程の中で継続出来るよう、毎年市長部局と協議しており、来年度に向けても継続できるよう協議をしていく。
- ・今後の公費負担についても、予算編成過程の中で市長部局と協議していく。
- ・また、様々な事情の家庭がある中で、給食の1食が重要なものとなってきている。栄養価のあるものをしっかり提供していくことができるよう、協議の中でも発信していく。

●委員

- ・栄養価の算出に関して、給食費の改定をしないと給食の質が落ちてしまうことがよく分かる。
- ・シミュレーションでは、脂質が高い数値となり、食物繊維については基準以下になっている。
- ・身体をつくる時期の食事の質を下げることは良くないことである。
- ・現在の食材価格の高騰は一過性のものではなく、恒常的になってきている。質を維持するためには、どこかから費用を捻出する必要がある。
- ・子供たちの中には、学校給食がすごく重要な子供もいる。身体づくりの基礎にもなるので、学校給食にかかる費用は確保していただきたい。

(3) その他

●委員

- ・公会計化について、保護者から様々な質問がある。事務局の方にも問い合わせは入っているのか。

○事務局

- ・総合コールセンターや事務局で対応しており、ホームページからも問い合わせがある。「よくある質問」についてはホームページに公開しており、随時更新している。

●委員長

- ・公会計化については、導入期であるため丁寧に対応していただきたい。
- ・本日は、改めて地産地消や食育、子供たちが摂取する栄養価の重要性について認識できた。
- ・栄養価を満たした給食を維持するために、給食費の一定の改定はやむを得ないが、できるだけ保護者負担を増やさない方向で進めていただきたい。